令和７年度全国学力・学習状況調査より（小学校）

児童生徒の学力や学習習慣・生活習慣等に関する結果の分析と
改善に向けた今後の取組について

福島市教育委員会

１　はじめに

福島市教育委員会では、令和７年度全国学力・学習状況調査を市教育施策に係る検証と改善に役立たせるとともに、その結果と改善策について広く市民の皆様へお伝えし、保護者や地域の方々のご理解とご協力を得ながら、学力の向上を一層図っていきたいと考えております。つきましては、本市全体の教科の平均正答率とともに、児童生徒の学力や学習習慣・生活習慣に関する課題や改善に向けた今後の取組をまとめましたので、ご覧いただければ幸いです。

なお、本市では各校の学力調査の数値結果等について、序列化や過度の競争につながるおそれがあることから、個々の学校名を明らかにした公表は行っておりません。

２　調査の概要

調査日	令和７年４月１７日
調査対象	市立小学校４０校の第６学年の全児童 市立中学校１８校の第３学年の全生徒 市立義務教育学校１校の第６学年の全児童、第９学年の全生徒
調査内容	小学校第６学年　国語、算数、理科 中学校第３学年　国語、数学、理科 生活習慣や学習環境等の質問調査

３　教科に関する調査の結果〔平均正答率及び平均正答数〕

小学校第６学年
当日実施人数
1,971 人

	福島市	福島県	全国（公立）
国語	６５％ 9.1 問／14 問	６５％ 9.1 問／14 問	６６．８％ 9.4 問／14 問
算数	５５％ 8.7 問／16 問	５５％ 8.8 問／16 問	５８．０％ 9.3 問／16 問
理科	５６％ 9.5 問／17 問	５６％ 9.5 問／17 問	５７．１％ 9.7 問／17 問

中学校第３学年
当日実施人数
1,753 人

	福島市	福島県	全国（公立）
国語	５４％ 7.6 問／14 問	５３％ 7.5 問／14 問	５４．３％ 7.6 問／14 問
数学	４６％ 6.8 問／15 問	４５％ 6.8 問／15 問	４８．３％ 7.2 問／15 問
理科	IRT ｽｺｱ：４９８ 共通問題：2.9 問／6 問	IRT ｽｺｱ：４９６ 共通問題：2.8 問／6 問	IRT ｽｺｱ：５０３ 共通問題：2.9 問／6 問

上段：平均正答率
下段：平均正答数

4　今回の調査結果からわかる本市の特徴

〇成果となる主な内容
▲課題となる主な内容

小学校		
国語	算数	理科
〇　文章と図表などを関連付けて必要な情報を見付けること。 〇　時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。 ▲　目的や意図に応じて情報を分類して、伝え合う内容を検討すること。 ▲　文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。	〇　伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすこと。 〇　数直線上で、１の目盛りに着目し、分数を単位分数のいくつ分として捉えること。 ▲　目的に応じてデータの特徴や傾向を捉えること。 ▲　図形を構成する要素に着目し図形を考察すること。	〇　花のつくりの特徴や受粉について理解し、説明すること。 〇　実験結果の違いをまとめたわけについて、結果を基に考察すること。 ▲　乾電池のつなぎ方の特徴を理解し、適切な実験方法を考えること ▲　温度によって水の状態が変化するという知識と関連付け、実際の事象について考察すること。

中学校		
国語	数学	理科
〇　読み手の立場に立って、表記を確かめて文章を整えること。 〇　事象や行為を表す語彙について理解すること。 ▲　目的に応じて、集めた情報を整理し、伝えたいことを明確にすること。 ▲　表現の効果について、根拠を明確にして考えること。	〇　相対度数の意味を理解し、グラフを活用して、数学的に処理すること。 〇　特定の場面において、必ず起こる事柄の確率について理解すること。 ▲　一次関数における x の増加量に対する y の増加量を求めること。 ▲　事象の中にある関数関係を見いだし考察する場面において、問題解決の方法を数学的に説明すること。	〇　見いだした問題を、科学的な探究として解決するための課題を設定すること。 〇　共通性と多様性の見方を働かせながら比較し、多面的・総合的に分析して解釈すること。 ▲　実験の結果を分析して解釈し、化学変化を原子や分子のモデルで表すこと。 ▲　スケッチから分かる植物の特徴を基に、植物の茎や根の構造について適切に表現すること。

福島市の子どもたちの学力を一層伸ばすために

小学校第６学年
国語

身に付いている力

①　目的に応じて、文章と図表などを関連付けるなどして必要な情報を見付ける力
②　時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉える力

育てたい力と手立て

①　目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討する力

→　知りたいことについて、自分の知識や予想したこと、疑問に感じていることなどを、聞く目的や意図に応じて内容ごとにまとめたり、それらの関係を明確にしたりする学習過程を大切にします。また、相手の答えを予想したり、予想した答えと関連して聞きたいことを考えたりするなど、聞くときの場面や状況を意識できるようにしていきます。

②　事実と感想、意見などとの関係を、叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握する力

→　書き手がどのような事実を理由や事例として挙げているかを書き出し、書き手の考えを自分の言葉で短くまとめるなどして、内容の中心となる事柄などを捉える学習活動を設定します。また、要旨を把握するために、文章の各部分だけを取り上げるのではなく、文章全体の構成に着目するよう促していきます。

小学校第６学年

算数

身に付いている力

①　伴って変わる二つの数量を見いだして、それらの関係に着目し、表や式を用いて変化や対応の特徴を考察する力

②　等分してできる部分の大きさや端数部分の大きさを表すのに分数を用いる力。分数が単位分数の幾つ分かで表す力

育てたい力と手立て

①　日常の事象について、目的に応じて表やグラフからデータの特徴や傾向を捉え考察する力

→　日常の事象について、興味・関心や問題意識に基づき必要なデータを収集し、棒グラフの項目間の関係を読み取ったり、目的に応じて適切なグラフを選択して考察したり、表から導いた結論の根拠となる数に着目したりするような学習を大切にしていきます。

②　図形を構成する要素とその関係に着目し、図形の性質や図形の構成の仕方、図形の計量について考察する力

→　辺の長さや角の大きさ、辺の位置関係に着目して、図形の構成の仕方を考えたり、図形の性質を基に図形を弁別したりするような授業を大切にしていきます。また、図形を構成する要素などに着目して、基本図形の面積の求め方を基に、図形の面積の求め方を説明できるようにする授業も大切にしていきます。

小学校第６学年
理科

身に付いている力

① 科学的な言葉や実験器具の使い方などの知識及び技能
② 問題に対するまとめを導くために、観察や実験などの結果を基に考える力

育てたい力と手立て

① **条件を制御した実験方法を発想する力**
→ 観察や実験の計画を立てる際に、変える条件と変えない条件に着目しながら、児童自らが条件を設定する時間を十分に確保するとともに、実験の後には、発想した方法を振り返り、適切に計画し、実験を行うことができていたことを繰り返し確認していきます。

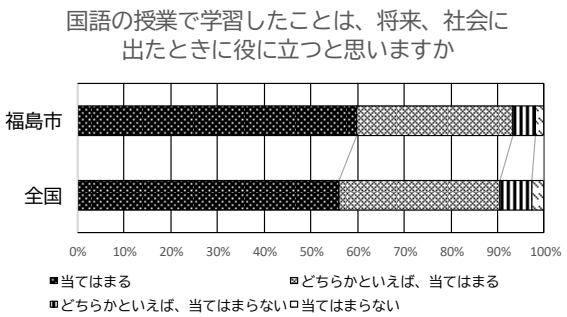
② **知識を基に概念的に理解する力**
→ 観察、実験したことを言葉で説明したり、図に整理したりするなどして、知識と関連付けて理解を深めていきます。また、他の学習との関連を考えたり、日常生活の中でどのように活用されているかを考えたりすることを大切にしていきます。

小学校・児童質問調査の結果から

本市の子どもたちのよい点

○ 学習内容の定着・応用力と協力的な学習姿勢

『国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか』の質問に対し、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童の合計の割合は 93.3%であり、全国平均を 2.9 ポイント上回っています。

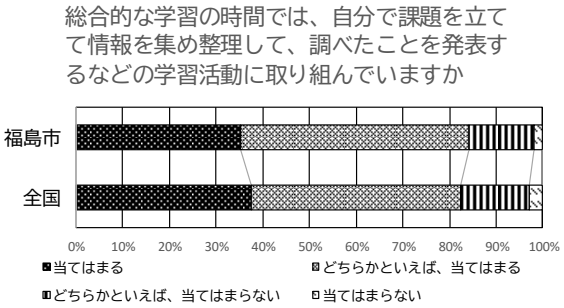


また、『友達と協力しながら学習を進めることができる』という協調性の高さと、『学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげる』といった質問項目についても、肯定的にとらえている児童の割合が多くありました。学習内容の定着と応用に対する意識の高さが見て取れました。

○ 主体的・対話的な学びと自己表現への意欲

『総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発

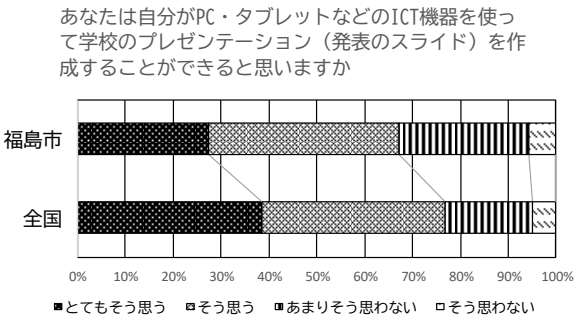
表する』の質問に対し、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童の合計の割合は 84.1%であり、全国平均を 1.8 ポイント上回っています。また、『学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている』『学級活動における話合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる』といった対話を通じた自己決定と実践への意欲が全国平均を上回っています。自己表現への意欲を生かし、主体的・対話的な学びが実現できるよう、授業の充実を図っていきます。



本市の子どもたちの課題

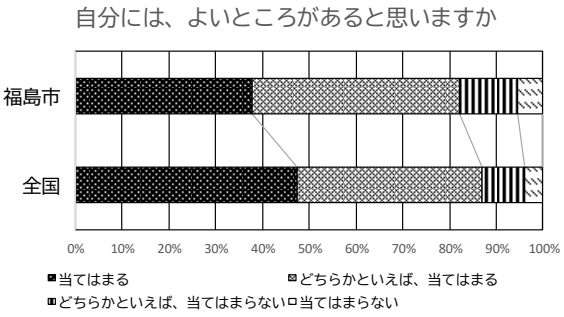
○ ICT 活用能力の偏り

「ICT 機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）」の質問における肯定的回答は全国平均より高いものの、「プレゼンテーション（発表のスライド）を作成する」の質問については、「とてもそう思う」「そう思う」と回答した児童の合計の割合は 67.2%であり、全国平均を 9.5 ポイント下回っています。同様に「ICT 機器で文章を作成する」についても全国平均を 3.7 ポイント下回っており、ICT の活用が限定的であることがうかがえます。ICT 活用能力が長けている点もありますので、総合的に活用を図れるよう、さらなる授業の充実と改善を図っていきます。



○ 自己肯定感と多様な視点への関心の不足

『自分には、よいところがあると思いますか』の質問に対し、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童の合計の割合は 82.2%であり、全国平均を 4.7 ポイント下回っています。また、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」といった、他者や社会との関わり、そして多様な考え方への関心が低い傾向にあります。これは、子どもたちが自身の存在意義や社会とのつながりを感じにくい状況を示唆している可能性があります。



「本市の子どもたちのよい点」では、子どもたちは協力して学ぶことや、学んだことを実践に結びつけようとする意欲は高いことが分かりました。授業では、子どもが自身のよい点を認識したり、多様な視点を受け入れたりすることができるよう、日々の授業の充実に努めてまいります。

ご家庭でも、お子さんの頑張りを認め、大いにほめて励ましていただき、学校と家庭の連携にご協力をお願いいたします。

学力向上へ向けた福島市教育委員会の取組

○　日々の授業の充実に向けて

・　年間を通して各種教員研修を行うとともに、学校訪問・授業研究会を通して、よりよい授業の実現に向け、個々の教員の指導力向上を図ります。
・　全ての教科を対象に指導主事を派遣し、教員の授業力向上に努めます。
・　各教科等の特質に応じて、１人１台タブレット端末を効果的に活用することで、学習活動の充実を図り、児童の学習活動を支援します。加えて、家庭においても自分のペースで積極的に活用できるように、タブレット端末の持ち帰りを推奨していきます。
・　各中学校区の学校の管理職や学力向上担当者と共に、小中の共通の課題や学力向上策を協議し、国語や算数（数学）をはじめとして、各教科の学力向上を図ります。

○　家庭学習の充実に向けて

児童質問「学校の授業時間以外に、普段（月～金）、１日当たりどれくらいの時間勉強しますか」に対し、「１時間以上」と回答した本市の児童は６７．６％で、全国（５４．０％）を大きく上回っていました。前年度の調査の同質問における本市児童の同回答（６２．６％）と比較しても向上しており、本市児童の家庭学習の習慣や主体的に学習に取り組もうとする態度が着実に育ってきていると言えます。今後は、児童自らの学ぶ内容を考えながらさらに意欲的に家庭学習に取り組むことができるよう、質的な充実を図っていきます。そのために、本市で作成している、「家庭学習のスタンダード（福島市版）」の各校での活用を奨励しています。今後も「学校での学習」→「家庭での復習・予習」→「学校での学習」というサイクルを確立することで学習内容の確実な定着を図るとともに、自らの学びをマネジメントする力の育成に努めていきます。

保護者の皆様へ

今回の「全国学力・学習状況調査」の結果から明らかになった課題の解決に向け、福島市教育委員会、学校が一体となって、引き続き、授業改善等の取組を推進してまいります。

今年度も本調査の結果から、本市の児童が家庭学習の習慣を身に付け、主体的に学習に取り組んでいることがうかがわれました。保護者の皆様のご協力に感謝申し上げます。

学校と家庭がともに手を携え一致協力することで、お子さんの学力向上に向け最大限の効果が発揮されます。今後におきましても、家庭での学習習慣の確立に向け、以下の点についてご協力をお願いいたします。

○　今回の学力調査の結果と児童質問紙の関連で分析した結果、「毎日、朝食を食べる」「毎日、同じくらいの時間に寝る」「毎日、同じくらいの時間に起きる」といった規則正しい生活習慣が身に付いているお子さんほど正答率が高くなる傾向が見られており、望ましい生活習慣の確立の大切さがうかがわれます。
○　お子さんが「決まった時刻に決まった場所で」落ち着いて学習できる環境を整えることが大切です。
○　お子さんの話に耳を傾け、様々な話題で会話する機会を設けることで、相手の話を最後まで聞き、相手の考えを受け止めて、自分の考えをしっかりと伝えようとする態度が育まれます。
○　お子さんが主体的に物事を考えたり、新しい考えを生み出したりするには、自分自身で決定する（自己決定）機会を作ることが大切です。
○　お子さんの頑張りを大いにほめてあげてください。ご家族の温かい言葉や励ましが、新たな学びに向かう意欲につながります。